

1

子どもの成長に寄り添う 子育てと子育ち

YMCAは、多様なサービスやプログラムを通して、子育て・子育ちの両面から子ども一人ひとりの成長に寄り添っています。保育やアフタースクールといった安心の場づくり、ウェルネスや語学教育、国際交流といった出会いや成長の機会。YMCAの子育て・子育ちのネットワークは全国に広がっています。

2

若者の力を信じる ユースエンパワーメント

YMCAは、幅広くスポーツクラスを行っています。成長段階に応じた技術の習得と、互いを思いやる気持ちとフェアプレーの精神を大切にし、協調性や社会性を育みます。水の事故から命を守る「YMCAウォーターセーフティ（水上安全）キャンペーン」を全国の学校で展開し、3万人以上が着衣水泳等を学びました。自然体験を通した人格形成、心身の成長を願い、野外活動、サマーキャンプ、スキーキャンプも展開し、年間86,000人が参加しています。

3

健やかな生活を支える 社会に貢献

YMCAは、幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の成長を応援しています。夢の実現に必要な知識やスキルの習得にとどまらず、さまざまな体験や出会いの中で人間力を育んでいく。YMCAのユースエンパワーメントはこれからも若者の成長を力強く支援していきます。

4

社会貢献の地域基盤となる 生活クオリティの向上

YMCAは、高齢化社会に対応する事業や活動にも注力しています。健康寿命の延伸や知的好奇心の追求、社会どんがなる機会を提供し、いきいきとした健やかな生活を支えます。高齢化が進む日本において、YMCAは、その入り生きることのできるQOL (Quality Of Life) の向上に貢献します。

1

チャイルドケア

全国92ヶ所で保育園・幼稚園・こども園を運営し、6,000人の子どもたちが在籍しています。子ども一人ひとりが愛されていると実感でき、保護者が安心して働くように、家庭と地域との連携を大切にしています。近年、保育園・幼稚園の開所が各地で続々と開校し、全国共通の「YMCA教育・保育理念と使命」を定め、専門職・管理者研修を実施しています。

2

学童・放課後

全国62ヶ所で学童保育を中心としたアフタースクール事業を展開し、5,000人が在籍しています。近年では、地域の小学校を拠点とする学校内事業の活動も盛んです。全国35ヶ所で児童発達支援事業、放課後等デイサービス・サポートプログラムを実施し、参加者は2,200人を超えました。学校での時間よりも長く過ごす子どもたちに、YMCAの総合力を活かした笑顔や、安心の場づくりを進め、高い評価を得ています。

3

ウェルネス・キャンプ

水泳、サッカー、バスケットボール、体操、ダンスなど、幅広くスポーツクラスを行っています。成長段階に応じた技術の習得と、互いを思いやる気持ちとフェアプレーの精神を大切にし、協調性や社会性を育みます。水の事故から命を守る「YMCAウォーターセーフティ（水上安全）キャンペーン」を全国の学校で展開し、3万人以上が着衣水泳等を学びました。自然体験を通した人格形成、心身の成長を願い、野外活動、サマーキャンプ、スキーキャンプも展開し、年間86,000人が参加しています。

4

語学教育・国際交流

異文化コミュニケーションの素地とグローバルな視点を養い、英語による自己表現ができるることをめざしています。英会話教室、英語児童園、インターナショナルスクール、夏期・冬期の短期プログラム、海外での交流、ホームステイも実施しています。中高生を対象とした全国YMCAイングリッシュキャンプが12回を迎え、全国では公設民営の国際バカロレア中高一貫校の運営が第一期生を迎えてスタートしています。

1

専門学校・日本語学校

全国に37校ある専門学校があり、分野は福祉系・サービス系・スポーツ系・建築系など多岐にわたります。若者の夢の実現を応援し、その職業に必要な専門知識・技術の習得と、人格の成長に寄与しています。日本語学校では、全国17校でおよそ2,600人が学び、年々その数は増えています。YMCAのグローバルネットワークを活かした進学や就職が、いずれも大きな魅力となっています。

2

オルタナティブ教育

従来の公的教育とは異なるオルタナティブな学習の場を提供し、社会生活に必要な知識やコミュニケーションスキルなど、多様な学びや育ち・生き方を支援します。居場所となるフリースペースや、それぞれのペースで学べる単位制高校、インターナショナルスクールなどで子どもたちが学び、過ごしています。

3

ユースエンパワーメント

全国で4,000人にのぼるユースボランティアがキャンプやスポーツ活動で日々、子どもたちと向かい合い、リーダーとして成長しています。第50回全国YMCAリーダー研修会は、「みつかる、つながる、よくなっていく」をテーマに、128人が参加。全国37の大学には学生YMCAがあり、450人の大学生・専門学校生が学びやフィールドワークを行なほか、エンジニアリング・エージェントをはじめとするアジア・世界のYMCAで活躍しています。

4

世界YMCA大会・日本YMCA大会

2018年7月に世界YMCA大会がタイで行われ、「ユースエンパワーメントが世界を変える」をテーマに、80以上の国と地域から1,300人以上、日本からは39人が参加。11月の日本YMCA大会では「つどえ東山莊に!~すべての"Y"がつながる日~」をテーマにユースが企画運営を行い、全国から247人が参加しました。ユースが主導の手として、ポジティブネットのある社会を実現していくことを体感しています。

1

ウェルネス

元気に自分らしく過ごすために欠かせない健康。全国45ヶ所のウェルネスセンターで、ジムやプールなどをを使った、健康的な身体づくりのためのプログラムを実施しました。また、高齢者を対象に、介護予防のYMCAオリジナル体操「こつけゅうゆう」や認知症予防の「コグニサイズ」(認知と運動を組み合わせたエクササイズ)を行な、ニュースでも取り上げられています。

2

生涯教育

学びや趣味の充実が生活を豊かにします。全国41拠点で語学学習、美術や音楽、社交ダンスなどの活動を通して、自分を高めると共に世代を超えた仲間の輪が広がります。スキルや経験を活かした地域でのボランティア活動の機会も多く、留学生や在外外国人生活サポート、子育てサポート、歌声広場など多岐にわたります。

3

高齢者ケア

歳を重ね身体の機能が思うようにならないことを受けとめつつ、持っている力を最大限に活かし、助けを尋ねながら自分らしく過ごせるよう、一人ひとりのライフステージに寄り添います。全国36拠点で地域や行政と連携を図り、高齢者ホーム、学生YMCAがあり、450人の大学生・専門学校生が学びやフィールドワークを行なほか、エンジニアリング・エージェントをはじめとするアジア・世界のYMCAで活躍しています。

4

社会貢献の地域基盤となる

YMCAは、高齢化社会に対応する事業や活動にも注力しています。健康寿命の延伸や知的好奇心の追求、社会どんがなる機会を提供し、いきいきとした健やかな生活を支えます。高齢化が進む日本において、YMCAは、その入り生きることのできるQOL (Quality Of Life) の向上に貢献します。

1

社会に貢献

1920年、六甲山麓でキャンプが行われ、これが日本における最初のキャンプになります。現在では年間86,000人の子どもたちが、ユースボランティアリーダーと共に全国各地でYMCAキャンプを体験しています。2018年11月には山中湖にて記念シンポジウムが行われ、2019年は岡蘇で行われます。

2

平和のためのアクション

国内では、ユースの呼びかけにより2万羽を超える千羽鶴が広島の原爆の子の像に届けられています。海外では、カンボジアの貧困地域での幼稚園運営、東ティモールでの無料サッカースクール、パレスチナでの職業訓練など、YMCA国際協力基金を用いて支援しています。11月20日の「世界子どもの日」に合わせて、子どもの権利条約を知るキャンペーンを開催しました。

1

ピンクシャツデー

いじめの問題に向き合い、2月27日に世界の人々と連帯してピンクシャツデーを行いました。いじめについて共に考え、決して傍観者とならないこと。YMCAに通う子どもたちや保護者に加え、地域の賛同も得て実施し、オリジナル動画も広く共感を得ました。学習会や講演会、ライトアップやディスプレイ、ピンクのシャツやものを身につけるアクションが行われ、全国で約4万人が参加しています。

2

西日本豪雨災害 被災地支援

全国で募金活動が行われ、広島YMCAとYMCAせとうちが、看護師や保健師、保護士などの専門職による被災者へのケア、被災家庭の心のサポートなどの活動、被災児童と家族を対象にしたキャンプ支援活動を実施しました。岡山県倉敷市真備町では防災コミュニティセンターを立ち上げ、日常的に住民や子どもたちへのプログラムを提供すると同時に、将来の災害への備えを行っています。

3

インターナショナル・チャリティーラン

2019年度には全国21YMCAで実施されます。14,000人のランナーとボランティアが活躍し、3,100万円がチャリティーの基金として集まります。この基金は、全国のYMCAが行なう障がい児・者のためのプログラムの運営資金として用いられます。

4

平和のためのアクション

国内では、ユースの呼びかけにより2万羽を超える千羽鶴が広島の原爆の子の像に届けられています。海外では、カンボジアの貧困地域での幼稚園運営、東ティモールでの無料サッカースクール、パレスチナでの職業訓練など、YMCA国際協力基金を用いて支援しています。11月20日の「世界子どもの日」に合わせて、子どもの権利条約を知るキャンペーンを開催しました。

OH OH OH OH OH

神の国は、からし棗のようなものである。
土に落ちたときには、地上のどんな種よりも小さいが、蘇くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の間に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。
(マルコによる福音書 4:31-32)

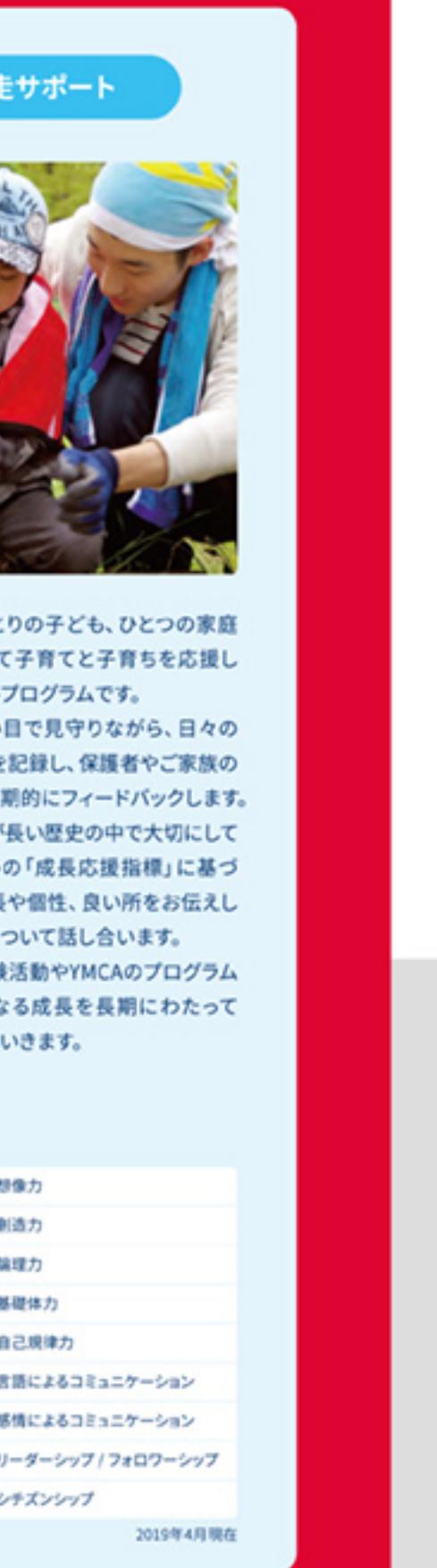
YMCAブランドの約束と実行をさらに結びつけるために

YMCAブランドの多岐にわたる活動を、4つの領域(赤枠1~4)と5つの目的(「日常の生活」ほか)で整理し、私たちの全国での活動を一覧で「見える化」しました。とりわけ、私たちの共通の強みである「個人に寄り添う力」を、子育て・子育ち領域から発揮するための新たな取り組みとして「YMCA伴走サポート」を推進していきます。

YMCAの全人的成長プログラム

YMCA伴走サポート

年齢層	幼児	小学生	中高生	学生	社会人
活動目的	1 子どもの成長に寄り添う 子育てと子育ち チャイルドケア アフタースクール 発達支援 / 放課後等デイサービス	2 若者の力を信じる ユースエンパワーメント インターナショナルスクール 高校生事業 フリースクール・進学指導 幼児・小学生英語 英語での課題解決プログラム 成人英語	3 健やかな生活を支える 生活クオリティの向上 専門学校 生涯学習 中高生ウエルネス 中高生野外 / キャンプ	4 社会貢献の地域基盤となる 社会に貢献 地域コミュニティ活動 ジュニアリーダー活動 リーダー活動・学生YMCA 会員活動・ボランティア	
	日常の生活	学びと習得	身体の形成	総合的な実践	
	チャイルドケア アフタースクール 発達支援 / 放課後等デイサービス	インターナショナルスクール 高校生事業 フリースクール・進学指導 幼児・小学生英語 英語での課題解決プログラム 成人英語	専門学校 生涯学習 中高生ウエルネス 中高生野外 / キャンプ	地域コミュニティ活動 ジュニアリーダー活動 リーダー活動・学生YMCA 会員活動・ボランティア	
	幼児	小学生	中高生	学生	社会人
	日常生活	学びと習得	身体の形成	総合的な実践	課題の解決と貢献



SDGs × YMCA グローバル・パートナーシップ

YMCAはポジティブネットのある豊かな社会を創造します。持続可能な開発目標(SDGs エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月に国連サミットで採択された2030アジェンダの開発目標です。17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(Leave no one behind)世界の実現を誓っています。国内外で広がる貧困や格差、紛争や気候変動の課題、子どものいじめや虐待など、世界の共通課題に向けて、YMCAも国内外のグローバルなパートナーシップを活用し、多様な連携を通じて世界を変える一翼を担います。
「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 絶対をなくす 人々	2 絶対をゼロに 環境	3 すべての人に 健康と福祉を	4 共の高い教育を みんなに	5 ジュニアーユニバ セラードを実現しよう	6 安全な水とトイレ を世界中に
7 ジュニアーユニバ セラードを実現しよう	8 食べきいも 資源をつくろう	9 農業と技術革新の 基盤をつくろう	10 入や国の不平等 をなくす	11 住み分けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 緑の豊かさを 守ろう	16 平和と公正を すべての人々に	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年までに
世界が目指した
「持続可能な開発目標」です

YMCA BRAND アクションブック

Japan YMCA's New Brand

- Vision**: YMCA will work towards building rich and inspiring communities connected by people's "Positive Net".
- Value**: The YMCA is a very special space where you can encounter something, connect with someone and transform yourself.
- Personality**: Open & Sharing, Proactive & Attractive.

2018 YMCA Highlights

- New Brand Image**: Japan YMCA's new logo and slogan were released in October, 2017 and were spread both inside and outside YMCA in 2018. In June, 2018, "YMCA Brand Book 2017 Highlight" was published with definition of program categories according to the new Brand-Concept. The training seminar for publication skill and necessary visual resources were provided to the local YMCA. Official uniform for staff, volunteers and participants were standardized and became familiar among local communities. "YMCA Brand Book" in English language and the booklet "YMCA Mission and Positive-Net" were also introduced to the public.
- Holistic development of Children**: With professional consultation and hearing session at local YMCA, Japan YMCA conclude that our mission and strength is to support children and their families by building an intimate relationship. According to said conclusion, the pilot program was developed and implemented at some local YMCA.
- Japan YMCA Mid-Term Strategic Plan**: The second year of the plan was implemented by NCY Japan and local YMCA in organic and evolving ways. Development of potential geographical area, possible financial fund and KPI (Key Performance Indicator) at local and national level were started with the support of professional consultation.